# 大学教育プログラム

## 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 大学間単位互換科目の開発年次計画

科目名	コーディ ネート科目	学年	授業方法	区分	開講主担当	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年
在宅チーム医療 早期体験学習	0		実 習	動機づけ	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		「NIC	・ E キャンパス長崎」 ・	登録科目	
地域包括ケア 早期体験学習	0		実 習	動機づけ	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		「NIC	E キャンパス長崎」	登録科目	
在宅がん治療概論	0		講義	基礎力	長崎大学		「NIC	E キャンパス長崎」	登録科目	大
在宅ケア概論	0	低学	講義	基礎力	長崎大学		ΓΝΙC	ト E キャンパス長崎」	登録科目	学間
在宅緩和ケア概論	0	年	講義	基礎力	長崎県立大学		「NIC	E キャンパス長崎」	登録科目	単位
地域包括ケア概論	0		講義	基礎力	長崎国際大学			「NICE キャンパ	ス長崎」登録科目	大学間単位互換プログラムの
在宅医療概論	0		講義	基礎力	長崎国際大学		ΓΝΙC	・ E キャンパス長崎」	登録科目	<b>ラ</b> デ
在宅看護論			講義	基礎力	長崎県立大学		「NIC	ト E キャンパス長崎」	登録科目	グラ
薬物治療実践学			講義	応用力	長崎大学		「NIC	E キャンパス長崎」	登録科目	> ムの
在宅がん治療特論	0	高	演習	応用力	長崎大学		「NIC	ト E キャンパス長崎」	登録科目	体系
在宅緩和ケア特論	0	学	演習	応用力	長崎県立大学			「NICE キャンパ	ス長崎」登録科目	化
地域包括ケア特論	0	年	演習	応用力	長崎国際大学			「NICE キャンパ	ス長崎」登録科目	
在宅がん医療・ 緩和ケア実習	0		実 習	実践力	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学	小規模 トライアル実施	大規模トライアル実施	「NICE キャンパ	ス長崎」登録科目	

動機づけ 基礎力

応用力

## NICEキャンパス長崎について

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互 換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参 加している。「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate (大学間) Credit (単位) Exchange (互換) の頭文字である。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネー ト科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、 科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される 制度である。

#### ※コーディネート科目

単位互換用に新たに開設する科目で、開講大学が設定した 長崎らしいものや時事的なものをテーマに、他の大学の教員 や、実業界で活躍されている方の協力を得て、オムニバス 形式で講義を行う。



「NICEキャンパス長崎」 2015年度学生募集ガイド

# コーディネート科目

# 合同授業 (基礎力)

## 「在宅がん治療概論」

#### 概要

在宅がん治療の基礎知識、在宅がん治療に携わるそれぞれの職種の職能、各職能がどのように連携して在宅がん治療に取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

#### 科目

開講期間:平成27年5月21日(木)~平成27年7月9日(木)

開講時間: 18:30 ~ 20:00 (90分) 開講場所: 長崎大学薬学部第2講義室

単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

#### カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講師
1	5月21日	オリエンテーション・がん患者の在宅療養支援	中嶋 幹郎(長崎大学薬学部)
2	5月28日	がん看護における看護師の役割	中嶋 由紀子 (長崎大学病院がん診療センター)
3	6月4日	がん診療における医師の役割	芦澤 和人 (長崎大学病院がん診療センター)
4	6月11日	がん治療における多職種協働	手嶋 無限 (開生薬局)
5	6月18日	在宅医療における看護師・薬剤師の役割	中嶋 幹郎 (長崎大学薬学部) 松山 しのぶ (長崎大学医学部保健学科)
6	6 月25日	在宅医療における医師・歯科医師の役割	山之内 孝彰 (長崎大学医学部医学科) 介田 圭 (長崎大学歯学部)
7	7月2日	在宅医療における栄養管理	駿河 和仁(長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科)
8	7月9日	在宅がん治療における地域リハビリテーション	松坂 誠應(長崎大学理事・副学長)

	所属		人 数
<b>三岭</b> 十兴	医学部 (保健学科)		3名
長崎大学	薬学部(薬学科)		2名
長崎県立大学	看護栄養学部看護学科		3名
		合計	8名

#### 聴講生内訳

所属			人数
長崎大学	医学部(保健学科)		1名
<b>汝啊</b> 人子	薬学部		4名
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			1名
福岡大学			 1名
		合計	7名

#### 一般社会人内訳

所属	人 数
管理栄養士	1名
	1名





- ●人が最期の瞬間まで人であるためには、身体的な部分のケアだけではなく、精神的、社会的、スピリチュアルな部分すべてがあっての人であるからこそ、一部分のみのケアでは人ではありえない。色々な角度、視点からその人らしさを探り、患者一人一人に合ったケアが本当に大切だと感じた。それは病院だけで完結するものではなく、地域まで目を広げないと実現できないものである。そのためには、色々な専門職が協働して同じ目的を共有して患者さんと家族と寄り添っていかないとならない。(看護学生)
- ●最も大切なことであるQOLの向上のためには各々の患者さんその人らしさを見つけることが必要であり、そのためには日々の変化や表情を読み取れる看護師が重要だと感じた。(看護学生)
- ●医師・看護師・薬剤師等がチームで関わっていくことで患者さんへより安心を感じられるようにできれば、治療の質、 安全性、QOLの向上ができると思う。(薬学生)

## 「在宅ケア概論」

## 概要

在宅療養支援に携わるそれぞれの職種の職能について、また各職能がどのように連携して在宅チーム医療を行っているかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

## 科目

開講期間:平成27年10月1日(木)~平成28年1月21日(木)

開講時間: 18:30~20:00 (90分) 開講場所: 長崎大学薬学部第2講義室

単 位:2単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

## カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講師
1	10月1日	オリエンテーション・在宅療養支援概論	中嶋 幹郎(長崎大学薬学部)
2	10月8日	在宅療養支援における介護支援専門員の役割	大町 いづみ (長崎大学医学部保健学科)
3	10月15日	在宅療養支援における緩和ケア	北條 美能留(長崎大学病院緩和ケアセンター)
4	10月22日	在宅療養支援における地域医療連携(概論)	川崎 浩二(長崎大学病院地域医療連携センター)
5	10月29日	在宅療養支援における地域医療連携の実際 (看護師ならびに医療ソーシャルワーカーの立場から)	田平 直美(長崎大学病院地域医療連携センター) 向田 圭介(長崎大学病院地域医療連携センター)
6	11月5日	在宅療養支援における長崎在宅Dr.ネットの役割	藤井 卓(認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット) (藤井外科医院)
7	11月12日	在宅療養支援における看護職の役割	中尾 八重子(長崎県立大学看護栄養学部看護学科)
8	11月19日	在宅療養支援における訪問リハビリの役割	本田 憲一(長崎リハビリテーション病院)
9	11月26日	在宅療養支援における薬剤師の役割	手嶋 無限(長崎大学薬学部)
10	12月3日	在宅療養支援における管理栄養士の役割	武藤慶子(長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科)
11	12月10日	在宅療養支援における歯科医師の役割	角町 正勝 (角町歯科医院)
12	12月17日	在宅療養支援における歯科衛生士の役割	猪野 恵美(長崎県歯科衛生士会)
13	1月7日	在宅療養支援における認知症	河口 朝子(長崎県立大学看護栄養学部看護学科)
14	1月14日	在宅療養支援における介護専門職の役割	堀部 和貴 (長崎県介護福祉士会)
15	1月21日	在宅療養支援における地域包括支援センターの役割	福田 一子 (長崎市西浦上・三川地域包括支援センター)

	所属		人数
長崎大学	薬学部(薬学科)		4名
		合計	 4名

## 聴講生内訳

所 属			人数
長崎大学	薬学部		28名
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			12名
長崎歯科衛生士	長崎歯科衛生士専門学校		20名
		合計	60名

#### 一般社会人内訳

所属	人数
看護師	1名
歯科衛生士	1名
合計	2名





- ●緩和ケアのイメージとしては、治療に基づいて、病態を和らげるケアを終末期頃に行うものだと考えていたが、実際は、病気を診断された時から、身体だけでなく心を含めたケアだった。また、患者だけでなく、患者の家族を含めた緩和ケアを様々な職種のチーム医療の連携によって行うことでQOLが向上し、予後をより良くできるが、現状は苦痛の緩和に満足しているのが半数なので、まだまだ取り組むべき課題だなと感じた。(薬学生)
- ●最近では、歯科でも訪問診療が多くなっていて、今後、社会に出る私たちには、欠かせなくなってきている。医師や 看護師だけに頼るのではなく、多職種が連携し、私たち歯科衛生士もしっかり考えていかなければならないと思う。(歯 科衛生士専門学校生)

## 「在宅緩和ケア概論」

## 概要

在宅緩和ケアの基礎知識、在宅緩和ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのようにして連携し在宅緩和ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

## 科目

開講期間:平成27年10月7日(水)~平成28年1月27日(水)

開講時間: 18:00~19:30 (90分)

開講場所:長崎県立大学シーボルト校東棟E110

単 位:2単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

## カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講師
1	10月7日	オリエンテーション・在宅緩和ケアの現状と課題	吉原 律子(長崎県立大学看護栄養学部看護学科)
2	10月14日	在宅緩和ケアの基礎知識	内田 新(長崎みなとメディカルセンター市民病院)
3	10月21日	ホスピス・緩和ケア	益富 美津代 (聖フランシスコ病院ホスピス病棟)
4	10月28日	在宅医療における医師の役割	中尾 勘一郎(認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット) (ホーム・ホスピス中尾クリニック)
5	11月4日	在宅緩和ケアとがん診療	山之内 孝彰(長崎大学医学部医学科)
6	11月11日	在宅医療における看護師の役割	船本 太栄子 (長崎市医師会訪問看護事業所)
7	11月18日	在宅医療における歯科医師の役割	介田 圭(長崎大学歯学部)
8	11月25日	在宅医療における薬剤師の役割	手嶋 無限(長崎大学薬学部)
9	12月2日	在宅医療における管理栄養士の役割	古川 美和(長崎市医師会医療センター診療所)
10	12月11日*	在宅医療と行政の役割	向原 茂明 (長崎県壱岐病院)
11	12月16日	在宅医療とハビリテーション	松坂 誠應(長崎大学理事・副学長)
12	1月6日	在宅医療と地域医療連携	川崎 浩二(長崎大学病院地域医療連携センター)
13	1月13日	在宅医療における地域医療連携の実際 (看護師と医療ソーシャルワーカーの立場から)	田平 直美 (長崎大学病院地域医療連携センター) 向田 圭介 (長崎大学病院地域医療連携センター)
14	1月20日	在宅医療における情報通信技術の活用	前村 葉子(長崎県立大学国際情報学部)
15	1 月27日	在宅緩和ケアにおける死生観	内村 公義 (NPO法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ)

	人数	
長崎県立大学	看護栄養学部(看護学科)	11名
	看護栄養学部(栄養健康学科)	1名
長崎大学	医学部保健学科	1名
	合計	13名

#### 聴講生内訳

所属	人 数
長崎県立大学看護栄養学部(看護学科)	7名
合計	7名

#### 一般社会人内訳

所属	人数
看護師	1名
管理栄養士	 1名
一般	 3名
合計	 5名





- ●緩和ケアはあきらめじゃない! 患者のQOLを大きく上げることもあるという言葉にとても心をうたれました。緩和ケアはその人らしく生きていくことを助けるということを改めて感じました。また、患者さんを一人にしない、できる限りサポートしていくという姿勢やコミュニケーション、距離の取り方の大切さがよくわかった。今回の授業で、緩和ケアは、治療だけではなく、患者の思い、遺族のケアなどがとても大切で、看護師としてはその思いをくみとり治療に携わっていかなければならないと思いました。(看護学生)
- ●カンファレンスなどの写真を見て、一人の患者さんを支える医療関係者(多職種)の数に驚きました。患者さんやその家族は、このように多くの人に支えられている安心と心強さを感じながら家で療養できることがとてもよいと思いました。また、在宅で看取る家族の不安や負担を軽減できるのも在宅緩和ケアならではだと思いました。(看護学生)
- ●在宅ケアにおいて、管理栄養士は看護師だけでなく歯科医とも連携して患者さんのQOLが向上するような「食事」を提供する役割があると思いました。生活の中の食事とそれを口から食べることは、人が生きる上でとても大きな力を持っています。そのような在宅ケアの場面に栄養士も深く関わって支えあうことができればと思います。(栄養学生)
- ■痛みを緩和するためにモルヒネなどの麻薬を使用すると言われていましたが、実際に薬剤師の方が家を訪問して治療や緩和ケアに参加していることを初めて知りました。その中で、薬での治療が全てではないということ、多職種とのチーム医療だからこそ違う視点や経験から、患者さんの問題を薬以外の方法で改善させる道も見つかることがあるのだとわかりました。(看護学生)
- ●栄養士も在宅ケアの様々な場面で患者さんの生活に合わせた栄養指導をして、患者さんが元気になるようなサポートができるとわかりました。高校生の時に新聞記事で在宅栄養士の事を知り、関心を持ちました。私自身、食べることが大好きなで、食べることにはとても大きな力があると思っています。人の食生活と健康を、その人や家族の立場にたってしっかりとサポートできるような管理栄養士になりたいと思いました。(栄養学生)

## 「在宅医療概論」

## 概要

在宅医療に携わる各職種また各職能が連携し、患者に対してどのようなアプローチを行うかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

## 科目

開講期間:平成27年10月3日(土)~平成27年11月21日(土)

開講時間:9:00~10:30、10:40~12:10(各90分)

開講場所:長崎国際大学6104教室

単 位:2単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

## カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講師
1	10月3日	在宅医療にかかわる多くの専門職と専門職連携の 重要性	岩下 淳二(長崎国際大学薬学部)
2	10月3日	在宅医療における行政のサポート	大塚 俊弘(長崎県県央保健所)
3	10月3日	在宅医療におけるヘルスカウンセリング	古賀 義(長崎国際大学人間社会学部)
4	10月10日	在宅医療における薬局薬剤師の役割	徳永 修 (あんず薬局)
5	10月10日	在宅医療における歯科医師の役割	疊屋 文人(佐世保市歯科医師会)
6	10月10日	在宅医療における緩和ケアの知識	山田 勝士 (長崎国際大学薬学部)
7	10月17日*	<b>■</b>   ■   ■   ■   ■   ■   ■   ■   ■   ■	藤井 洋光(イーエヌ大塚製薬株式会社)
8	10月17日	長崎県民フォーラム	古川 美和(長崎市医師会医療センター診療所)
9	10月24日	在宅医療における医師の役割	太田 一寿(長崎国際大学薬学部)
10	10月24日	在宅医療における薬剤師の役割	七嶋 和孝(ななしま薬局)
11	10月24日	在宅医療における調剤と薬の知識	仮屋薗 博子 (長崎国際大学薬学部)
12	11月14日	在宅医療における看護師の役割	越智 幸代(佐世保市医師会訪問看護ステーション)
13	11月14日	在宅医療における病院薬剤師の役割	川﨑 浩一(佐世保市医師会訪問看護ステーション)
14	11月21日	在宅医療における健康サポート	熊谷 賢哉 (長崎国際大学人間社会学部)
15	11月21日	在宅医療における管理栄養士の役割	林 俊介(長崎国際大学健康管理学部)

※第7回、第8回(10月17日)は13:30~15:30に長崎国際大学4101講義室で開催の「平成27年度第1回長崎県民フォーラム」

所属			人数
	薬学部(薬学科)		103名
長崎国際大学	健康管理学部(健康栄養学科)		17名
人間社会学部(社会福祉学科			 7名
		合計	 127名

## 一般社会人内訳

所属	人数
一般	1名
合計	1名





- ●患者さんにより良いサービスを提供するためには、多くの職種と連携し、情報を共有しなければならないことが理解できた。(社会福祉学生)
- ●患者さんがどのような状態にあっても、的確かつ最善な治療ができるような技術を身に付けていきたい。(栄養学生)
- ●患者さんが健全に自宅で暮らせるようにするために、在宅医療において、専門職の連携が重要であることが理解できた。(薬学生)

# 合同実習 (動機付け)

## 「在宅チーム医療早期体験学習」

#### 目的

大学・学部間の垣根を越えて、地域の訪問看護ステーション、薬局等の施設担当者とともに在宅療養者宅への同行を通し、在宅療養支援の実際を知ることで、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

#### 一般目標

在宅療養者が必要とするケアに対して、地域の保健・医療・福祉チームがどのように連携し療養支援を行っているかを理解する。

#### 行動目標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている様々なケアの内容について述べる(知識)
- ②在宅療養者を中心にしてどのような職種が関わっているかについて述べる (知識)
- ③地域における薬局・訪問看護ステーションの目的やチーム医療における役割について述べる(知識)
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する(態度)
- ⑤グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する(態度)

### 科目

開講期間:平成27年8月27日(木)~8月28日(金)

1泊2日の宿泊型

開講場所:長崎大学薬学部、訪問看護ステーション、薬局

単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・

福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成27年度 NICEキャンパス長崎 大学間連携実習報告書

	8月27日(木)	(木) 8月28日 (金)		8月28日(金)	
8:30~	合同オリエンテーション	6:30~	起床		
10:00~	施設での体験学習	7:00~	朝食、整理整頓など		
	(訪問看護ステーション、薬局)	8:20~	長崎大学薬学部へ移動		
17:00~	宿泊施設へ移動	9:00~	グループワーク、ポスター作成		
	(宿泊先:長崎市日吉青年の家)	12:00~	昼食		
18:00~	夕食	13:00~	学習報告会発表準備		
19:00~	セミナー	13:30~	学習報告会		
21:00~	グループワーク	16:15~	写真撮影		
22:30	就寝	16:30	解散		

#### 参加学生内訳

所属		人 数	
	医学部(保健学科看護学専攻)		2名
長崎大学	医学部(保健学科理学療法学専攻)		5名
	薬学部(薬科学科)		1名
	看護栄養学部(看護学科)		15名
長崎県立大学	看護栄養学部(栄養健康学科)		2名
長崎国際大学	薬学部(薬学科)		5名
		計	30名



#### 受講生の感想 (一部抜粋・編集)

- ■ある一つの職種だけではなく、いろいろな分野の専門職者が患者をアセスメントし、その情報を医療者だけではなく、 家族とも共有していくことが最も重要になってくるのではないかと思う。(看護学生)
- ●在宅療養という言葉を聞いたことはあったが、その実際については今までほとんど知らなかった。今回、体験学習を通して、老々介護・認々介護の大変さ、家を出られない方たちにとって訪問医療がどれだけ重要かがわかった。在宅療養の支援のためには多職種についての理解と自分の専門性を深め、連携をとっていくことが必要なのだと思った。(理学療法学生)
- ●今回、在宅医療の現場を見学し、高齢化社会に伴い、在宅療養支援はますますニーズが高くなると思った。家族で介護をしている方も高齢化になってきているので、医療従事者による支援があれば、家族の負担も軽減するので、必要不可欠な時代になると思う。また、多職種連携によって様々な方面から症状を判断できるので連携は大切だと感じた。(薬学生)
- ●住みやすい在宅療養は家のつくり、周辺の様子や限られた空間内でのリハビリなど問題はあるが、患者さんのニーズを考えると、とても重要なことであり、支援は必要だと思う。また、在宅療養では様々な職種がかかわってくるので情報共有、コミュニケーション、チームプレーは多職種連携において不可欠だと考える。(理学療法学生)
- ●制度を整え、様々な職種がもっと積極的に関われるような取り組みが社会でされるべきだと思う。(栄養学生)
- ●看護師が在宅療養者と直接関わることでわかる患者の要望や、体調の変化を他の医療職へ伝え、患者と医療職との "かけ橋"になっていくことも重要だと思った。(看護学生)

## 「地域包括ケア早期体験学習 |

#### 目的

地域の在宅医療支援施設の担当者とともに在宅療養者宅への同行や地域包括支援センターの実務を学ぶことを通し、在宅療養支援の実際を知ることで、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

#### 一般目標

高齢者をはじめとする地域住民の保健・医療・福祉・介護ニーズに対して、地域包括支援センターが果たしている役割や、地域の関係機関と専門職がどのように連携し支援を行っているのかを理解する。

#### 行動目標

- ①地域包括支援センターの4つの機能(総合相談、権利擁護、介護予防マネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント)とその地域の特性について理解する。(知識)
- ②地域の高齢者を中心に、どのような機関や専門職、非専門職が関わっているかについて述べる(知識)
- ③学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する(態度)
- ④グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する(態度)

### 科目

開講期間:平成27年9月10日(木)~平成27年9月11日(金) 開講場所:長崎大学薬学部、長崎市内の地域包括支援センター

単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・

介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成27年度NICEキャンパス長崎 大学間連携実習報告書

9月10日 (木)	9月11日(金)
9:30~ 合同オリエンテーション	8:30~ 長崎大学薬学部集合
10:30~ 昼食(移動時間含む)	9:00~ グループワーク、ポスター作成
13:00~ 施設での体験学習	12:00~ 昼食
(地域包括支援センター)	13:00~ 学習報告会発表準備
17:00~ 長崎大学薬学部で点呼、解散	14:00~ 学習報告会
	15:30~ 写真撮影
	16:30 解散

#### 参加学生内訳

所属			人数
	医学部(保健学科看護学専攻)		1名
長崎大学	医学部 (保健学科理学療法学専攻)		3名
	薬学部(薬学科)		1名
長崎県立大学	看護栄養学部(看護学科)		10名
	看護栄養学部(栄養健康学科)		4名
	薬学部(薬学科)		8名
長崎国際大学	健康管理学部(健康栄養学科)		4名
合計		31名	



- ■高齢化社会が広がる日本において在宅療養支援は必要不可欠な物になると思う。私たちはそれぞれの専門職のスキルを磨くだけでなく、多職種の人と連携して、利用者の方の情報交換やケア、そして退院後の在宅生活の管理まで手厚いサポートをすることで、地域の人のくらしに貢献できると思った。(薬学生)
- ■超高齢化で病床数や医療費、介護費や人員不足など様々な面での資源不足が予測される中で在宅による療養は、より必要とされる。しかし、それ以上に療養者本人にとっても住み慣れた場所での療養を希望する方は多いと思う。その在宅療養をもっと幅広く大きく可能にするためにより多くの職種・分野の方が病院や薬局などの枠から外へ出る必要があると思う。(看護学生)
- ●在宅療養支援は高齢者が住み慣れた地域で過ごすにはとても必要なものだと思う。これから高齢者の人数が増えていくと思うので、高齢者がくらしやすい環境を作ることが大切だと思う。多職種連携は一人の患者さんに対しさまざまな方向からの意見を聞くことができるので、これからもっと広めていく必要がある。(理学療法学生)
- ●今回の実習で、地域包括支援センターを通して在宅療養において栄養士がかかわっていける場があると学ぶことができた。地域で高齢者の方を支えていくためには、専門職間でお互いの考え方を理解しあり、連携していくだけでなく、地域で暮らす人や当事者も含めて協力していかなければならないと思う。看護師や薬剤師、ケアマネジャーなどと協働できるような管理栄養士になりたいと思う。(栄養学生)

# 合同授業(応用力)

## 「在宅緩和ケア特論 |

#### 概要

- ・在宅緩和ケアを必要とするがん患者および家族の、ケアの目標を多職種からなるチームで構築する。
- ・模擬事例を用いた在宅療養の実際から、患者、家族の目標、達成に向けた課題と支援内容(各専門職の役割) を具体的に検討し、「担当者による模擬カンファレンス」として発表する。

#### 一般目標

将来のチーム医療・チームケアの実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、在宅療養のケア方針を立てる 過程および模擬カンファランスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、チームとしての質の高い医療・ ケアを提示する能力を習得する。

#### 行動目標

- ① (在宅)緩和ケアについて理解する。
- ②在宅療養支援(チーム医療)における各専門職の視点とケア内容をチームとして理解する。
- ③在宅療養において患者や家族が有する課題 (要望・ニーズ) をチーム内で共有する。
- ④課題解決に向け、エビデンスの高い情報を各専門性およびチームとして活用する。
- ⑤課題解決のケアは、患者・家族の医学的問題のみでなく、全人的な対応が求められることを理解する。
- ⑥課題解決の方法およびケアを討議することで、多職種連携の重要性を理解する。
- ⑦患者・家族の理解、課題と解決策の根拠と各役割を、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

#### 科目

開講期間:平成27年5月23日(土)・平成27年6月6日(土) 開講場所:長崎県立大学シーボルト校地域・老年看護実習室

単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している

3年次以上の学生

開講日・開講場所	内 容
1 日目(5月23日)	・オリエンテーション、自己紹介 ・緩和ケアに関するレクチャー ①在宅緩和ケアと症状コントロール ②在宅緩和ケアを必要とする患者・家族の療養支援と多職種の役割 ・事例1の提示(教員による模擬カンファレンス) ・事例2の提示、グループワーク (患者全体像の把握今後の在宅療養の継続に向けた課題をグループで 共有)
2日目(6月6日)	<ul> <li>・オリエンテーション</li> <li>・グループワーク</li> <li>(在宅療養の継続に向けた課題、必要な支援の整理)</li> <li>・発表準備</li> <li>・模擬カンファランスによる発表</li> <li>・全体討論、まとめ</li> </ul>

所属		人数	
	医学部 (保健学科)		2名
長崎大学	歯学部		1名
	薬学部(薬学科)		1名
	看護栄養学部(看護学科)		1名
長崎県立大学	看護栄養学部(栄養健康学科)		1名
長崎県立大学	人間社会学部(社会福祉学科)		1名
		合計	8名







- ■緩和ケアは、時期にかかわらず疾患に伴う身体と心の痛みやつらさを和らげることであり、そのことで患者や家族が「自分らしく」過ごせるよう支えることであると分かった。そのためには生活の中での問題を把握し幅広い支援を行うことが大切だと学習できた。また、看護は、患者だけに着目するのではなく、家族の目に映る患者の姿とそれによる家族が抱える悩みやつらさを分かち合える存在になることが必要だと感じた。このことは、事例の長女役をしたことで、看護師などの医療従事者も分からないような、患者に対する感情があることや負担が大きくなると患者にも医療従事者にも他の家族にも言えなくなるという感情が生まれて分かった。そのため多職種のカンファレンスでは、様々な感情をくみ取り理解できる会話をしていく必要があると学んだ。(看護学生)
- ●事例を通したグループワークで他学部学科の意見を聞き、各専門職で患者へのアプローチが異なっており、職能や職域について 少し実感することができた。そのため薬剤師専門性として、患者の何に対して主張し、また他職種はどのような職能を発揮し協働 ができるかということを知っておくこともチーム医療の重要なファクターだと感じた。(薬学生)
- ●事例の役割を担うことで、各専門性の知識や経験がそれぞれ取り入れられた人物設定がしっかりとでき、皆がそれぞれの立場で一生懸命、患者さんの生活の事や考え、気持ち、家族の思いや生活の事を考えることができた。またその中から、自分の専門性がどういったところで求められるかを体感した。しかし自分でそれをきちんと出ないと患者にとって大切なことが見過ごされたり、気付かれなかったりするので、自分の専門的知識の大切さを改めて感じた。(歯学生)
- ■演習で、薬学生から「食事をある程度食べてもらわないと薬が効かない。」とか、看護学生から、「筋肉が落ちるとリハビリも大変。 筋肉をつけられる栄養や食べる物は何か。」とか、歯学部生から「治療だけでは歯茎の健康は守れない。」といった声を聴き、"栄養士の介入できる場面がある"と実感できた。また、栄養科だけではわからない、薬のこと口腔や咀嚼嚥下についてもすぐ質問できたことで、自分の知識も深まり勉強になった。だがそれを最大限に生かすためには、各人の専門性を高める努力と、患者や他の職種を理解し、連携していくためのコミュニケーション能力が必要であることもわかった。(栄養学生)
- ●在宅ケアでは、まず患者さんの意見をしっかり聞くことが大切だと思う。患者さんは、今後どうありたいか、痛みの度合いはどうか、 困っていることは何かをいかに上手く聞き出すかが大事だと感じた。そしてそれに対し各専門職たちの意見と重要性、優先性を調べたり話合ったりして、患者さんに合うケアを考えることである。また家族の思いやケアも同時に重要視し必要なケアを考えなければいけないと考えた。(社会福祉学生)

## 「地域包括ケア特論 |

#### 概要

- ・日常生活において何らかの支援を必要とする利用者(患者)および家族の、支援計画を多職種からなるチームで検討する。
- ・模擬事例を用い、利用者(患者)及び家族の目標の達成に向けた課題と支援内容を具体的に検討し発表する。

#### 一 般目標

地域包括ケアの実践に向けて、利用者(患者)および家族の情報を共有し、生活支援計画を立てる過程を経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、チームとしての質の高い生活支援計画を提示する能力を習得する。

#### 行動目標

- ①地域包括ケアについて理解する。
- ②地域包括支援センターについて理解する。
- ③介護保険制度について理解する。
- ④日常生活における利用者(患者)および家族が有する課題(要望・ニーズ)をチーム内で共有する。
- ⑤課題解決に向け、エビデンスの高い情報を各専門性およびチームとして活用する。
- ⑥課題解決の方針および支援内容を討議することで、多職種連携の重要性を理解する。
- ⑦利用者(患者)および家族の理解、課題と解決策の根拠と各役割を、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

#### 科目

開講期間:平成27年11月14日(土)・平成27年11月28日(土)

開講場所:長崎国際大学6102教室 単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している

3年次以上の学生

#### 日 程

開講日・開講場所	内 容
1 日目(11月14日)	<ul> <li>・オリエンテーション、自己紹介</li> <li>・レクチャー ①地域包括支援センターの機能と役割 ②地域包括ケアにおける医師の係わり ③地域包括ケアにおける歯科医師の係わり</li> <li>・症例の提示及び解説</li> <li>・グループワーク 患者全体像の把握学習項目の抽出</li> </ul>
2日目(11月28日)	<ul> <li>・グループワーク</li> <li>グループ内で自己学習の内容共有</li> <li>介護予防サービス・支援計画表作成</li> <li>発表準備</li> <li>・グループ発表</li> <li>・全体討論、まとめ</li> </ul>

	所属		人数
長崎国際大学	薬学部(薬学科)		5名
	健康管理学部(健康栄養学科)		3名
		合計	8名







## 受講生の感想 (一部抜粋・編集)

- ●今回の実習で、自分の専門性が地域包括ケアにおいて重要になるのだと知ることが出来たので、栄養士として具体的に何をどのようにサポートすれば対象者にとってよりよいものになるのかを細かく考えていきたい。(栄養学生)
- ●何を最優先させるべきなのか、相談者にとってどうすることが最善策なのかグループ内で様々な意見がでた。一人で考えると気づかなかった点が多くあり、また他学部の人とも意見交換したことでその専門性を生かした意見を聞くことができた。(薬学生)

# 合同授業(実践力)

## 「在宅がん医療・緩和ケア実習 |

#### 目的

本実習は、医療・保健・福祉等の学科を専攻している学生が、自己の目指す専門性を伸ばすとともに、がん患者に対する病院から在宅へ切れ目のない療養支援や在宅緩和ケアにおけるチームアプローチについて学ぶことを目的とする。そのため、長崎大学病院や在宅療養支援(歯科)診療所などでの実習を行う。また、他大学の他学科生とのグループによる共同作業を通して、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得することがねらいである。

#### 一般目標

病院から在宅へ切れ目のない支援や在宅がん医療・緩和ケアにおける多職種協働の実際や重要性について理解する。

#### 行動目標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている在宅がん医療・緩和ケアの内容について述べる(知識)
- ②病院から在宅への切れ目のない療養支援の内容について述べる(知識)
- ③在宅がん医療・緩和ケアにおけるチームアプローチについて述べる(知識)
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する(態度)
- ⑤グループで学習成果をまとめ、全員で討議することで、学びを発展させる(態度)

### 科目

開講期間:平成27年9月2日(水)~平成27年9月4日(金)

開講場所:長崎大学病院、在宅療養支援(歯科)診療所、長崎大学薬学部

単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している

高学年次(原則)の学生

実習日・実習場所	内 容
1日目(9月2日) 長崎大学病院	9:00~ オリエンテーション 10:00~ セミナー 13:00~ 実習(診療科、診療部門、センターなど8部門) 16:00~ オープンカンファへ参加 17:00~ 解散
2日目(9月3日) 長崎地区の在宅療養支援 (歯科)診療所等	9:00~ 実習 ・在宅療養支援診療所 7カ所 ・在宅療養支援歯科診療所 2カ所 17:00~ 長崎大学薬学部にて解散
3日目(9月4日) 長崎大学	10:00~ グループワーク 13:00~ 発表準備 14:00~ 学習報告会

#### 参加学生内訳

所属		人数	
	医学部(保健学科看護学専攻)		1名
長崎大学	<b>歯学部</b>		3名
	薬学部(薬学科)		5名
 長崎県立大学	長崎県立大学 看護栄養学部(看護学科)		1名
	薬学部(薬学科)		2名
長崎国際大学	健康管理学部(健康栄養学科)		2名
	人間社会学部(社会福祉学科)		1名
		合計	15名



- ■専門分野の知識はもちろん、他分野の知識をどんどん取り入れて学んでいく姿勢が一番大切であるなと思った。(歯学生)
- ●今回、他学部・他大学の方と交流する機会があって非常に良かった。自分が思いつかない考え方や、今までの経験を共有できて、将来チームとして動く上でのイメージをつかむことができたと思う。(薬学生)
- ■実際に在宅医療を見学して見て現在の日本の現状を知った。やはり施設から在宅への切れ目のない支援を行うためには、 多職種が協働し、一人一人の患者さんが良い環境で生活できることを一番に考える必要があると思う。また、患者さんの 家族状況・病態・心理的な面などに気を配りながら緩和ケアをしていくことが大切だと改めて考えさせられた。(栄養学生)
- ●今後の医療はより専門性を求められる時代になってくると思うので、その中で多職種連携をすることで患者に対しても抜け 目のないより質の高いケアを提供することにつながると思う。また、最初は様々な学部が集まるので、うまくすすむのか不 安だったが、いろんな学部が集まったからこそ、今まで自分が知らなかった分野も学ぶことができた。(看護学生)

## 「地域包括ケア概論」

## 概要

地域包括ケアの基礎知識、地域包括ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのように連携して地域包括ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

## 科目

開講期間:平成27年4月25日(土)~平成27年6月13日(土)

開講時間:9:00~10:30、10:40~12:10(各90分)

開講場所:長崎国際大学6104教室

単 位:2単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

## カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講師
1	4月25日	地域包括ケアにかかわる専門職と専門職連携の重要性	岩下 淳二 (長崎国際大学薬学部)
2	4月25日	入院患者の退院支援・退院調整	永田 敬博(佐世保共済病院医療連携室)
3	4月25日	在宅ケアマネージメント	堀田 智津子 (あかがき内科循環器科)
4	5月9日	在宅訪問看護	越智 幸代(佐世保市医師会訪問看護ステーション)
5	5月9日	在宅訪問介護	秋月 眞理子 (ハートフルケアたまがわ)
6	5月16日	在宅医療における栄養(1)	林 俊介(長崎国際大学健康管理学部)
7	5月16日	在宅医療における栄養(2)	林 俊介(長崎国際大学健康管理学部)
8	5 月23日	患者・家族が望むこと	松尾 文子 (認知症の人と家族の会佐世保支部代表)
9	5 月23日	バリアフリーについて	原哲弘(長崎国際大学人間社会部)
10	5月30日	地域包括支援センターの機能と役割(1)	下平和子(佐世保市長寿社会課)
11	5 月30日	地域包括支援センターの機能と役割(2)	長塚 弘章(佐世保市相浦地域包括支援センター)
12	6月6日	地域密着型サービスについて	山辺 誠司(小規模多機能ホーム あかりの里)
13	6月6日	地域包括ケアにおける医師の役割	山之内 孝彰(長崎大学医学部医学科)
14	6月13日	地域包括ケアにおける歯科医師の役割	介田 圭 (長崎大学歯学部)
15	6月13日	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	徳永 修 (あんず薬局)

※履修生が少なかったため、今年度は不開講とした。

## 「在宅がん治療特論 |

#### 概要

在宅移行予定のがん患者に対するケアの方針を、多職種からなるチームで構築する。最終発表は模擬カンファランスの形式で行う。

#### 一般目標

将来のチーム医療実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、ケアの方針をたてる過程および模擬カンファランスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、医療チームとして質の高い医療を提示する能力を習得する。

#### 行動目標

- ①在宅療養において患者や家族が有する問題をチーム内で共有する。
- ②在宅療養を支援する職種の視点と業務内容を理解する。
- ③問題解決のため、エビデンスの高い情報を活用する。
- ④問題解決のための患者・家族へのケアは、医学的問題のみでなく、全人的な対応が求められることを理解する。
- ⑤他職種と連携してチーム医療(在宅療養支援)を行うことの重要性を理解する。
- ⑥患者・家族への理解、問題やケアの方針、各役割について、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

## 科目

開講期間:平成27年11月7日(土)・平成27年11月21日(土)

開講場所:長崎大学薬学部研修室 単 位:1単位(教養科目)

対 象:「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している

3年次以上の学生

#### 日 程

開講日・開講場所	内 容
1日目(11月7日)	・オリエンテーション、自己紹介 ・レクチャー ①在宅がん治療 ②介護保険制度 ③退院支援と退院調整 ・事例1の提示(教員による模擬カンファレンス) ・事例2の提示 ・患者全体像の把握、学習項目の抽出
2日目(11月21日)	<ul><li>・グループ内で自己学習の成果報告</li><li>・発表準備</li><li>・模擬カンファランスによる発表</li><li>・パワーポイントによる発表</li><li>・発表に対する質問、まとめ</li></ul>

※履修生が少なかったため、今年度は不開講とした。

## 必修科目

# 合同授業 (基礎力)

## 「在宅看護論 |

#### 概要

疾病や障害があっても、「当たり前の暮らし」を送ることを保障する在宅看護の役割と機能を理解する。在宅療養における生活支援と、生活の中における医療の継続に視点を置き、医療・保健・福祉の連携と協働を理解する。

#### 到達目標

- ①社会の変化に伴い形を変える在宅医療・看護の流れと現在の姿を理解できる。
- ②疾病や障害を抱えつつも在宅生活や社会参加を希望する人たちの思いを理解し、その実現のために活動する訪問看護師の働きを理解できる。
- ③在宅ケアを支える制度と社会資源を理解できる。
- ④在宅療養者を支える訪問看護の展開と基盤となる施設の管理運営を理解できる。
- ⑤在宅ケアにおける他機関・他職種連携とマネージメントを理解できる。

#### 科目

開講期間:平成27年10月6日(火)~平成28年1月26日(火)

開講場所:長崎県立大学シーボルト校 単 位:2単位(専門必修科目)

対 象:長崎県立大学看護栄養学部看護学科2年次の学生

回		内 容		
1	在宅看護の目的と特徴	在医療・在宅看護の目的と特徴 1章		
2	在宅看護の対象者	療養者の特徴 2章		
3	在宅看護の対象者	家族 2章		
4	在宅看護の制度	在宅看護の仕組み 3章		
5	在宅看護の制度	訪問看護の特徴と訪問看護ステーション 3章		
6	在宅看護の展開	事例を通してみる在宅看護家庭 4章		
7	在宅看護の展開	他職種との連携、安全の確保 4章		
8	在宅看護の展開	対象者の権利保障 4章		
9	在宅看護の実際	訪問看護の実践、ケアマネージメント		
10	在宅看護過程(1)	ICFモデルの特徴と在宅看護で活用する意義		
11	在宅看護過程(2)	展開方法(1)		
12	在宅看護過程(3)	展開方法(2)		
13	発表	発表及びグループ討論		
14	発表	発表及びグループ討論		
15	まとめ	在宅看護の理念		
評価	定期試験 60% 発表 30% レポート10%			

# 合同授業(応用力)

## 「薬物治療実践学 |

#### 概要

超高齢社会における在宅療養を支援することは重要である。そのため、在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解して行動できる次世代の医療職(薬剤師)を育成する。

#### 授業のねらい

薬学生に対しては「薬局薬剤師の職能に関するアドバンスト教育」を行う。

#### 授業方法(学習指導法)

スライドを使った講義と受講者による小グループ討論を行う。

#### 到達目標

在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解し、地域医療の中で薬局薬剤師が取り組む共同薬物治療管理 (CDTM) の内容について説明できる。地域医療の中での医療・介護・福祉の専門職間の連携(多職種協働)の重要性と薬局薬剤師、看護師、医師等のそれぞれの専門職が果たすべき役割について説明できる。

#### 科目

開講期間:平成27年4月13日(月)~平成27年4月20日(月)

開講場所:長崎大学

单 位:1単位(必修科目)

対 象:長崎大学薬学部薬学科6年次の学生

## 日程

回	内 容	
1	これからの地域薬局のあり方と薬局薬剤師の目指す薬物治療	薬剤師の大学教員による講義
2	薬局薬剤師が支援するセルフメディケーション	薬局薬剤師による講義
3	高齢者の在宅療養支援	理学療法士の大学教員による講義
4	在宅療養支援における看護職との連携	看護職の大学教員による講義
5	薬局薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント	薬局薬剤師による講義
6	在宅療養支援におけるチームアプローチ	薬剤師の大学教員による講義
7	在宅療養支援におけるチームアプローチ॥	看護師による講義
8	総合演習	全体での討論
評価	授業中の課題に対する積極的な取組状況…50%、レポート…50%の総合評価とする。	
備考	毎回の授業内容をよく復習しておくこと 「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」からのNICEキャンパス長崎登録科目	

※長崎大学薬学部 平成27年度シラバスより抜粋